

～第 196 通常国会 国民大運動・安保破棄中実委・中央社保協主催 2・14 定例国会行動～

いのちと人権の対極にある戦争は絶対にさせない！



2月14日、第196通常国会での第2回定例国会行動が議員会館前で行われ、全商連の中山眞常任理事の司会のもと、130人が参加しました。全労連の大西玲子常任幹事は「国は憲法9条、25条を守り、誰もが安心して生きることができるような税金の使い方をして頂きたい」と訴え、医療・介護改悪の中止を求める署名など、寄せられた42,953人分の署名を赤嶺政賢衆議院議員に手渡しました。

<発言概要>

全日本民医連の山本淑子さんは主催者挨拶で、4日投開票の名護市長選の結果に触れ「大変悔しい思いをしたが、先週も座り込みを行い勝つまであきらめない思いを新たに」と述べ、過去最高の軍事費と社会保障の解体により安倍政権の生活破壊は止まらないと批判し、「まさに『軍事費削ってくらしと福祉・教育の充実を』は国民の切実な要求。いのちと人権の対極にある戦争をさせないために、3,000万人署名を必ず達成させよう」とよびかけた。

唯一の勝利者は、辺野古反対の民意だ！

激励に駆けつけた日本共産党国会議員団の赤嶺政賢衆議院議員は、初めに「名護市長選では大変残念な結果だったが、相手陣営は辺野古への字も言わず、出口調査では7割の市民が辺野古新基地建設反対を示した」とし、「まるで沖縄の民意が変わったかのような本土の各メディアの報道が目についた」と述べた。12日付の沖縄の新聞の中で行政法の先生が「今回の選挙では辺野古の問題は何も決着がつかない。唯一の勝利者は、辺野古反対の民意だ」と述べていることを紹介し、「辺野古反対を隠して勝っても、圧倒的な県民の民意を前に政府と取引をしようとすれば、たちまち自公陣営は矛盾にぶつかり暗礁に乗り上げる。辺野古新基地を作ることは絶対にできない」、「このたたかいを通じて私たちがわかった



ことは、沖縄県民のいのちとくらしと米軍基地の矛盾は絶対に両立できない。必ず安保体制、基地押し付けの体制に立ち上がらざるを得ない。」と訴えた。13日に、米軍ヘリの部品が落下した宜野湾市の緑ヶ丘保育園のお母さん達、園長らとともに防衛省、外務省交渉を行ったことに触れ、泣いてばかりだったお母さんたちの「自分たちが子どものいのちを守り、国の主権を

取り戻すために、がんばる」との決意を聞いて感動したと述べ、「北朝鮮、北東アジアの問題でも世界の流れは武力の行使ではなく対話以外に解決の道はない。憲法改悪を絶対に許さず、国会でも全力で頑張る決意だ。ともにがんばりましょう」とよびかけた。

子どものいのちが戦争で奪われるような社会にはしたくない

全教の市塚絢子青年部事務局長は、青年教職員の中に憲法を広めよう、と初めて青年たちだけで 3,000 万人署名の街頭宣伝を企画し行い「10 人が参加し 30 分で 46 人と対話。そのうち「9 条は変えない方がよい」、「急がなくてよい」が 39 人だった」と報告。その取り組みを通して「9 条を変えた方がよいと言われたときはドキリとした。でも、自分一人の意見は微力だが、反対している意思表示になる」、「9 条を変えないということに確信が持てず迷いがあったが、様々な意見が聞けてよかった。自分と違う意見でも、まずは受け入れながらの対応を見て学んだ」と二人の青年の感想を紹介し、「街頭宣伝は相手の声を受け止めながら自分の思いを伝えていくことで、対話の糸口になる。子どものいのちが戦争で奪われるような社会にはしたくない。3,000 万人署名を更に大きく広げる」と決意を語った。

署名を集める人が多ければ多いほど署名集約も進む

埼玉大運動実行委員会から **埼玉土建の戸田武治次世代対策部長**は、3,000 万人署名の取り組みを紹介。埼玉土建では、組織の 5 倍、35 万人を目標にとりくみを始めている。まずは、「署名を達成できるかどうかは署名レンジャーの活躍次第」として「署名レンジャー」を募集。「県内 33 支部で 2,214 人の仲間が決意しており、すでに 100 筆以上集めた仲間は 222 人。1 月末現在で 100,392 筆になる」として「自分の言葉で憲法を語る仲間を増やそうと憲法パンフや機関紙を使って、1 月には憲法共同センターの DVD を各支部に配布し、学習を積み重ねている」と紹介。「署名を集める人が多ければ多いほど、署名集約も進んでいる。埼玉の越谷支部では 1 月末で 5 倍目標の達成目前となっている」とし、2/26 にはオール埼玉によびかけ、3,000 万人署名学習意思統一集会を開催することにも触れ、3,000 万人署名達成をめざしてともに頑張ろう」と呼びかけた。

廃案にするために 100 万筆を達成させよう！

全労連の伊藤圭一常任幹事は、「安倍首相は『労働時間法制』『均等均衡法制』『雇用対策法制』の 3 つの重要な課題に関して、8 つの法案を一括りにして一括審議にすることを考えている」とし、その中身は「まさに過労死を認めるような内容であり、定額働かせ放題の『裁量労働制』、24 時間労働を連日させても OK の『高度プロフェッショナル制度』、格差是正と言いながら法案の中に『同一労働同一賃金』の言葉は一言もない」と批判。雇用対策法案については「雇用の流動化として自営型やフリーランスの働き方が進められ、団結権破壊も狙われている」とし、すでに審議の中で過酷な実態が出されても岩盤規制に穴をあけるとつっぱね、さらに「『裁量労働制』の方が一般的な働き方よりも労働時間が短い」などと偽装データを持ち出してきことを批判。「こんな法案は廃案にしよう！」と訴え、「安定した良質な雇用対策法を国に義務付けるために、運動を広げ署名の目標 100 万筆を達成させよう」と呼びかけた。

安保破棄中央実行委員会の東森英男事務局長が行動提起を行い、おしまいに、**新婦人中央本部の藤井住枝さん**によるコールで、参加者全員が国会に向けてシュプレヒコールを行った。

～第 196 通常国会 (6/20 閉会予定) 今後の定例国会行動の予定です～

◆12:15～13:00 ◆衆議院第 2 議員会館前 ◆隔週の水曜日

◆2/14、2/28、3/14、3/28、4/11、4/25、5/9、5/23、6/6